

## 暖帶性広葉樹材の流通(Ⅲ)

## —樹種別・規格別価格—

林業試験場九州支場 安永 朝海  
森田 栄一

## 1. はじめに

前2報において、暖帶性広葉樹原木の中心市場である都城地区製材業協同組合の一般市と銘木市における樹種別・規格別取引量(件数、本数、材積、価額)について報告したが、価格に関しては、樹種別価格の概要を示すことにどまっていた。

そこで本報では、表-1に示すような3回の市を対象として、樹種あるいは樹種群別・規格(長級及び径級)別の価格を中心に整理を行った。従来ほとんど皆無であった暖帶性広葉樹に関するこれらの数値は、目的樹種の選定や生産目標設定のための市場側からの有力な情報として活用される可能性がある。

## 2. 樹種別価格差

取引上の樹種区分は、単一樹種の場合が多いが、たとえば「シイ類」、「広葉樹込み」といったように、複数の樹種を含む区分の場合もある。後者を含め、以下では単に樹種と呼ぶこととするが、これらの取引上の樹種数は合わせて48の数値にのぼる。

表-2ではこれらの樹種のすべてについて、銘木・

一般市とのうち高い平均価格の方を選び、高価格順に並べその平均価格を示した。( )あるいは( )印のない樹種(ただしシラカシ、アカガシ、イタジイ、

表-1

市 の 種 類		銘木市	一般市
開設年月日		58.9.8 58.10.12	58.9.24
市 の 番 号		第373回 第375回	第374回
取扱総数	件数、件 本数、本 材積、m <sup>3</sup> 価額、千円	3,452 30,392 4,462 203,650	832 9,725 1,081 30,387
取扱総数に占める広葉樹の割合	件数、% 本数、% 材積、% 価額、%	55 27 51 52	57 26 57 60
平均価格	針葉樹、円/m <sup>3</sup> 広葉樹、円/m <sup>3</sup>	45,224 46,030	25,845 29,841
樹種又は樹種群数	針葉樹 広葉樹	12 46	9 33

表-2 樹種別平均価格(高価格順), 円/m<sup>3</sup>

樹種	価 格		樹種	価 格		樹種	価 格	
	銘木市	一般市		銘木市	一般市		銘木市	一般市
(ケヤキ)	128,679	46,927	カツラ	41,962	24,500	ナラガシワ	30,618	22,499 20,282
クワ	110,625	—	シラカシ	40,796	41,777	チャンチン	30,500	22,144 21,669
シオジ	99,843	—	カエデ	40,883	25,064	チシャノキ	30,481	17,825 21,340
ハゼノキ	34,158	82,079	コナラ	40,000	—	ブナ	25,498 27,622	(シイ類込み) 19,908 16,392
クリ	73,337	—	(タブノキ)	37,880	27,480	ネムノキ	27,463 26,201	カキ 18,000 —
センダン	69,715	37,079	(クスノキ)	35,668	20,651	ツバキ	27,427 25,926	エノキ 17,690 15,310
キリ	58,000	—	(サクラ)	33,816	25,325	トネリコ	26,664 —	広葉樹込み 17,550 16,376
ハリギリ	54,223	23,860	ハイノキ	33,260	—	チャンチンモドキ	24,880 —	イタジイ 16,695 17,495
(イチイガシ)	52,708	45,280	ニガキ	26,728	32,000	(コジイ)	24,676 23,747	イイギリ 17,487 —
エンジュ	49,434	—	(イスノキ)	31,437	31,734	ニレ	23,282 24,612	カゴノキ 17,000 —
(ミズメ)	49,030	33,614	(カシ類込み)	31,045	26,449	シデ	23,790 20,157	ヘラノキ — 16,610
アカガシ	44,762	31,143	キハダ	30,339	30,643	クロモジ	23,329 17,606	クロガキ — 13,800

注. 樹種名の( )は取引材積構成比10%以上、( )は同じく3%以上10%未満の樹種。

Tomomi YASUNAGA and Eiichi MORITA (Kyushu Br., For. and Forest Prod. Res. Inst., Kumamoto 860)  
The distribution and circulation of hardwoods in Japanese warm temperate regions (III) Prices by tree species and log sizes in Miyakonojo Log Market

広葉樹込み、の4樹種を除く)は、第2報で「稀少樹種」として分類した樹種であるが、これらの多くは単発的ないし散発的な取引であって、少数事例のため信頼度の低いものや、銘木市のシオジの例のように価格の変動幅が過大(変動係数171)なものもあるが、その他の樹種については、おむね実態をよく示していると推察される。

前報において「主要樹種」として分類した「カシ類」及び「シイ類」では、前者がイチイガシを筆頭にアカガシ、シラカシ等ほぼ平均以上の価格を示し、量ばかりでなく価格面においてもカシ類が暖帯性広葉樹の代表的樹種であることがわかる。一方、コジイを中心とする「シイ類」については、一番高いコジイでもカシ類総平均価格の58%(銘木市)~66%(一般市)であってかなり低価格となっているが、皆伐天然更新が容易で、40~50年でのローテーションが可能であるといった施業技術上の利点や、家具等への利用拡大といった加工技術開発への期待等との関係を考慮すれば、これまた重要な樹種の一つである。

また、( )印を付した樹種は、シイ・カシ類に次いで取扱量の多い樹種で、前報において「準主要樹種」として分類した樹種群であるが、価格においても、ケヤキをはじめ平均以上の水準のものが多く、注目される樹種群である。特にケヤキは、銘木市のいわば自玉商品となっており、南九州においてもきわめて重要な樹種に数えることが出来る。

### 3. 規格別価格

広葉樹の丸太規格は、特に定められたものではなく、また針葉樹以上に多様であって、それぞれの「はえ」を長級17種、径級11種に分類して樹種ごとに集計した。

表-3は、その分類を再整理し、長級7種、径級5

表-4 市別・長径級別平均価格(事例), 円/m<sup>3</sup>

区分	広葉樹合計		イチイガシ		コジイ		ケヤキ		クワ	
	銘木市	一般市	銘木市	一般市	銘木市	一般市	銘木市	一般市	銘木市	一般市
長級区分	平均価格	46,030	29,841	52,708	45,280	24,676	23,747	128,679	46,927	110,625
	2m未満	28,196	39,077	24,016	19,110	25,242	—	36,175	49,535	—
	2mもの	37,786	23,865	40,039	37,572	24,015	21,754	32,892	49,228	40,000
	3mもの	34,997	25,126	47,920	41,483	23,924	21,904	100,953	36,803	121,332
	4mもの	54,181	33,702	56,419	48,502	25,777	24,588	206,737	68,988	120,100
	5mもの	71,852	46,298	59,146	54,491	27,990	26,512	145,157	73,857	105,500
	6m以上	100,908	46,032	67,824	62,489	30,135	21,000	190,475	—	—
径級区分	込み	29,283	29,290	45,370	40,346	24,620	26,139	31,488	35,624	—
	13~18cm	25,634	25,158	24,863	38,000	—	—	27,135	—	61,734
	19~30cm	32,412	27,410	47,021	37,174	22,729	20,492	69,006	42,622	74,037
	31~40cm	41,326	32,728	55,349	47,099	26,583	25,632	114,564	60,213	174,682
	41cm以上	81,835	37,356	58,004	54,099	27,017	24,255	277,129	—	—
	込み	32,700	17,274	48,800	—	23,234	12,000	29,810	—	32,200

表-3 市別・長径級別、材積、価額構成比(%)

長級・径級区分	銘木市		一般市		
	材積割合	価額割合	材積割合	価額割合	
長級	2m未満	1.9	1.2	0.8	1.0
	2mもの	12.5	10.2	13.7	10.9
	3mもの	33.7	25.6	29.9	25.2
	4mもの	30.5	35.8	25.4	28.8
	5mもの	4.1	6.4	5.4	8.4
	6m以上	6.2	13.6	2.5	3.9
	込み	11.1	7.1	22.3	21.9
径級	13~18cm	0.2	0.1	0.4	0.3
	19~30cm	34.2	24.1	37.6	34.6
	31~40cm	37.5	33.7	40.9	44.9
	41cm以上	20.8	36.9	12.0	14.9
	込み	7.3	5.2	9.1	5.3

種に分類し表示したものであるが、実際の取引量をみると明らかのように、長級2m未満、径級18cm以下はほとんど取引の対象とされていない。

規格別価格は表-1に示す通りで、広葉樹の総平均では、長級・大径ものが高価なのは当然であるが、長級については等差級数的に、径級については等比級数的に上昇しているのが一般的な傾向である。しかし樹種ごとに見ると、用途との関連でそれぞれ特徴がある。表-4に例示したクワは、最小寸法に対する許容度が広葉樹材の中では飛び抜けて低い(11cm)樹種であって、13~18cmでも62千円(銘木市)という高水準となっている。

また、今後天然林施業の有力樹種と見られるコジイについては、長級で3mと4mの間、径級で30cmと31cmの間にそれぞれ価格差が大きく、4m、30cmという規格が生産目標設定の際の一つの有力な目安となる。